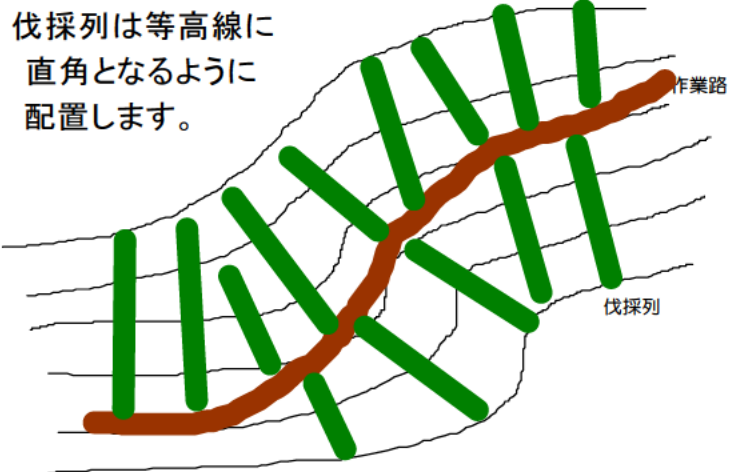
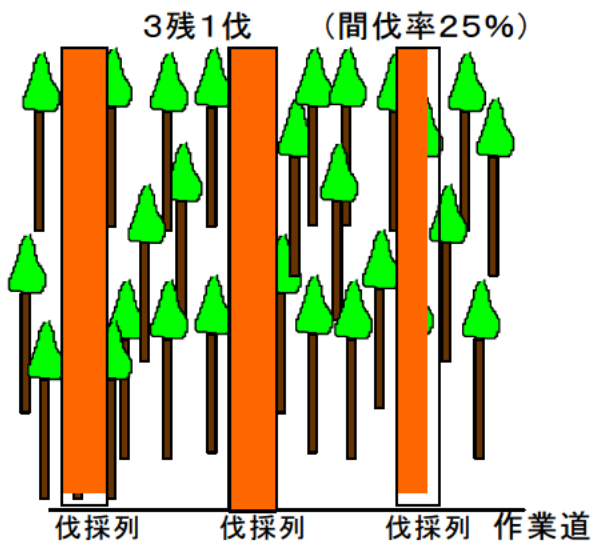


列状間伐とは！

間伐の目的は、森林内の立木密度を管理することで、結果として森林の持つ多面的機能を高度に発揮させるための不可欠な施業です。

しかし、現在の木材価格では、林齢が40年以上の間伐材でも売り払い価格が実施経費を下回り、林家の資金持ち出しの状況となっています。このことから、間伐木が林内に放置されています。

少しでも、間伐木の販売により、林家収入が確保できるように、搬出コストが低減できる列状間伐が全国的に提言されています。

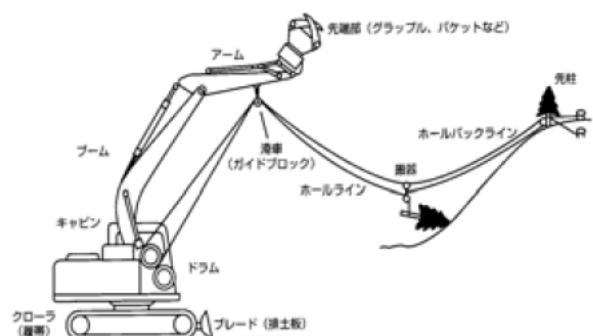


列状間伐は、集材・造材・搬出コストの低減を目的とした間伐方法であるため、作業道の開設と、高性能林業機械の導入が不可欠です。

写真: 右 列状間伐を行った林内の状況
3残1伐の場合は、次回に中心部を間伐する。



スイングヤーダ 油圧ショベルに集材機を装着し、伐採列を地引集材します。



プロセッサ 全幹集材された間伐材の枝払い、
玉切りの造材作業を行います。

フォワーダ グラップルクレーンで積み込みを行い
作業路上を運材します。クローラー型
もあります。



列状間伐には、**良いところ**も**悪いところ**もあります。

良いところ

1. 伐採、搬出に要する経費が削減できる。
2. 残存木の損傷が少ない。
3. 伐採列を機械的に決めるので選木が容易。
4. 列に伐採するため、「かかり木」が少ない。
5. 機械化のため安全作業ができる。

悪いところ

1. 残存木には形質の悪い木も残る。
2. 40年生以上で2回程度の定性間伐済みが条件。
3. 伐採列に面しない残存木に間伐効果が及びにくい。
4. 間伐率を低くすると効率的作業ができない。
5. 作業路、機械システムに投資が必要。

列状間伐を実施して、伐採・搬出経費の削減による林家収入増に成功するか否かは、次のことに対応できるか、できないかで決まります。

林道・作業道沿いで高性能林業機械が使用できること【搬出経費の削減】
ある程度(3ha以上)の面積がまとまっていること【団地化が必要】
柱材の取れる程度以上の森林であること【高値の材価に期待】

成功させるためには、林家の皆さんが「まとまって団結」していただくことです。

“みんなで利用間伐に取り組もう！”

三重県環境森林部林業経営室 林業普及指導員

住所： 〒514-8570 津市広明町13番地

T E L : 059-224-2991 F A X : 059-224-2070

E-mail : ringyo@pref.mie.jp